

令和2年度 大学院修士課程 鍛金専攻実技試験

- 日 時 2月13日(木) 筆答試験 10:00~11:00
実技試験 10:00~16:00
(昼食は12:00~12:45の間に鍛金学生教室でとること)

○ 問 題

与えられた図面の器をつくりなさい

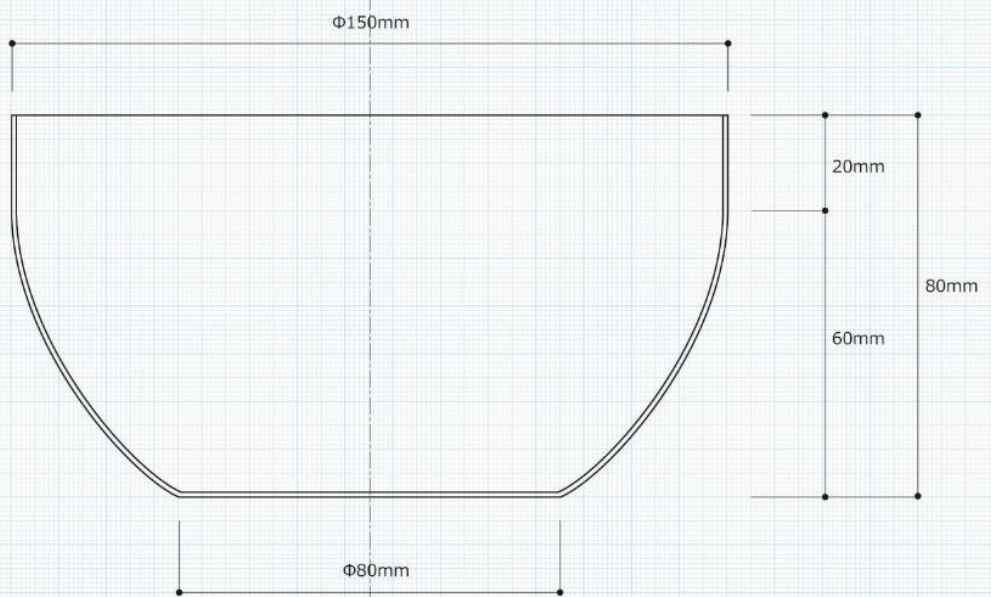
○配布物

- ・銅板 300×300mm
- ・図面
- ・草案用紙 3枚
- ・クリアシート
- ・マジック

※クリアシートはゲージに加工してもよい。

-
- 面接試験は16:30から鍛金教員室で行います。

受験番号	
------	--



題目	大学院修士課程 鍛金専攻実技試験
品名	器
素材	銅板 (1.0mm)
年度	令和 2 年度
所属	東京藝術大学 鍛金研究室

令和2年度 大学院修士課程 鍛金専攻筆答試験

解答時間：10：00～11：00

問題1 下記の（ ）に当てはまる語句を記述しなさい。[]には数字を記述しなさい。

- ・銀器等に使われる925スターリングシルバーは銀（ ）%、銅（ ）%の合金である
- ・彫鍛金で使用されるヤニの主成分は、松ヤニと（ ）と（ ）である
- ・四分一（朧銀）は（ ）と（ ）の合金である。
- ・赤銅（烏銅）は（ ）[]%と（ ）[]%の合金である。
- ・鍛金で主に使用される真鍮は（ ）を7に対し（ ）を3の比率の合金である
- ・銀鑑（五分鑑）の融点は[]°Cで、成分比は銀10に対して真鍮[]である
- ・日本工業規格においてS50Cとは炭素を約[]%含む炭素鋼鋼材である
- ・100円白銅貨などに使われる白銅は主に（ ）と（ ）の合金である
- ・18-8ステンレス鋼は炭素鋼に（ ）を18%、（ ）を8%加えた特殊鋼である
- ・一般的に金属加工で使われるドリルの先端切刃角は[]度である
- ・雌ネジ加工において通常、M []のタップを使ってネジを切る場合、下穴6.8mmで穴をあける
- ・ストレートシャンクドリルは通常、直径が[]mm以下である
- ・半田の主な成分は（ ）と（ ）である
- ・銅を硫酸銅と緑青を入れた水溶液で煮る着色を（ ）着色という。このとき銅の表面に形成される皮膜は（ ）である。銅を硫化着色した場合、その表面には（ ）の被膜が形成される。
- ・Pt900はプラチナを（ ）%含んだものである
- ・日本刀の制作に用いられる練鋼は（ ）とよばれる

問題2 銅に施す着色技法を3つ上げ、その中の一つの着色手順と使用する薬品を説明しなさい。

① () ② () ③ ()

番号 ()

問題3 鍛金技法における「絞り」について説明しなさい。

問題4 鉄の鍍付け技法について、使用薬品等を含め説明しなさい。

